



図書室から利用者への情報発信

木曾 亜衣子

I. はじめに

図書室を少しでも多くの人に利用してもらい、図書室の存在意義を高めるために、図書室から利用者に向けて役立つ情報を発信することは、司書の大切な仕事のひとつと考える。しかし、日々の業務と平行しながら限られた時間の中で、いかに有用な情報を発信していくのか。耳原総合病院（以下、当院）図書室における活動を紹介していきたい。

II. 方法と対象者

情報発信は、印刷物の配布や掲示、新卒医師や新たに入職した医師に対するオリエンテーションという形で行っている。

図書室が医局の奥にあり、図書室専用の掲示板なども設置していないので、掲示は全て医局の掲示板と図書室内に行っている。医局の掲示板といっても、特に図書室コーナーがあるわけではないので、他の掲示物に埋もれてしまう可能性も大いにある。そのため、掲示物は内容を簡潔かつ明確にし、しかし全体的には目を引くように作成するように心がけている。

新卒医師と年度途中に入職してきた医師には、当院オリエンテーションの一環として、必ず図書室オリエンテーションを行っており、ここで、図書室の基本情報を伝えるようにしている。オリエンテーションの詳しい内容は、次のIII-1で述べる。

情報発信の対象者は、現段階では医師のみで

ある。医局内に図書室があり、情報の提示も医局内ということで、現在では必然的に医師にしか発信されていないが、たまに看護師やコメディカルスタッフが、「病院内に図書室があるのは知らなかった」と言いながら来ているのを見ると、何とか図書室情報の発信対象を広げたいと思う。

2004年5月よりイントラネット版ホームページがテスト運用されており、現在まだ数は少ないものの、各課や部門が情報を発信しはじめている。ここに是非図書室のページも開設したいと考えている。そうすれば、情報発信の方法の幅も対象者も広がり、より多くの人に図書室の機能を知ってもらえると思う。

III. 情報の発信

1. 図書室オリエンテーション

IIでも述べたように、新卒医師や年度途中に入職してきた医師には、図書室オリエンテーションを行っている（図1）。この場で、所蔵資料や書籍貸出に関するルール、図書室もしく

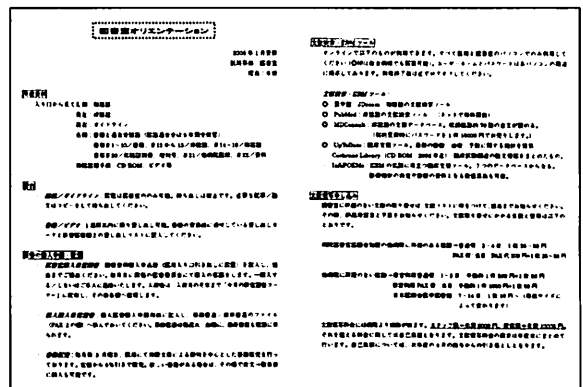


図1. 図書室オリエンテーション

**医中誌
JDream**

勉強会のお知らせ

最先端のコソコソ株式会社をお招きして、文献検索ツール「医中誌」と「JDream」の勉強会を開催致します。検索の基本はもちろん、知っていたら便利な活用まで、盛りだくさんな内容を予定しております。

一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。ご参加人数を把握しておきたいため、参加ご希望の方は、下の表にお名前をお書きください。

日時：7月8日(金) 18:00~19:30

場所：合同カンファレンスルーム

No	名前	No	名前
1		11	
2		12	
3		13	
4		14	
5		15	
6		16	
7		17	
8		18	
9		19	
10		20	

ご欄外は、ご署名 不要です。

図3. 文献検索ツール勉強会のお知らせ

新刊書籍Fair
始まります！！

毎月第3月曜日 17:00~18:00、神陵文庫さんがお勧めする新刊書籍を中心とした書籍を、医局にて直接販売致します。

- ①実際に書籍を試読してから買えるので失敗がない
- ②一度に多くの新刊を試せる
- ③わざわざ書店に行く必要がない
- ④定価の5%引きで購入可能
- ⑤その場での発注も可能

・・・等々多くのメリットも、先生方のお役に立てれば幸いです。是非ご利用ください。

好評であれば、回数を増やしていく予定です。

*****11月の予定*****

日時：11月21日(月) 17:00~18:00

場所：医局ラウンジ

図4. 新サービス開始のお知らせ

で何を行うのかはもちろん、具体的にどのような内容か、参加することのメリットは何かを明確にするようにしている。また、ワードアートを使用したり、注意事項や重点ポイントは太字にするなどしてキーワードがすぐに目に入るようにし、全部を読まなくても、大まかな趣旨は理解できるように工夫している。

4. その他

上記Ⅲ-1~3のとおり、色々な印刷物を通じて、少しでも多くの情報を発信するようにしているが、やはり見落とす場合もあると思われる。そこで、図書委員会でも新たに決定したことや、掲示物の内容などは、毎朝の朝礼時に随時連絡することにしている。時間の限られた朝礼なので長々と話すわけにはいかないが、例えば、勉強会に関してのお知らせなら、勉強会開催決定の直後、1週間前、当日、というように何度も対象者に情報を提供できるメリットがある。また、せっかく毎日医局内にいるのだから、日々の声かけも欠かさない。「○月×日にこのような勉強会がありますよ」「こんな書籍が入

荷しましたよ」など、どんな些細な情報でも、一人でも多くの人に伝わるようにしている。

Ⅳ. 終わりに

今回、改めて図書室からの情報発信のあり方を考えた。現段階での図書室利用者は、大半が医師に限られており、何とか発信すべき情報は発信していると思われる。今後の課題は、情報発信対象者の拡大と発信方法の効率化である。まずは、早急にイントラネット版ホームページに図書室情報を掲載し、図書室の利用者を増やしていくとともに、いつでも図書室についての情報を得られる環境を作っていく。

参考文献

- 1) 山岸里子：院内への広報活動。ほすびたるらいぶらりあん。2004；29(4)：234-9
- 2) 天野いずみ：「図書室だより」による情報発信と広報活動。病院図書館。2001；21(1)19-21